

おかげの里便り

おかげ横丁

○ 歳の市

おかげ横丁では、しめ縄作りや門松づくりなど、昔ながらの正月迎えの風習に触れる、お正月のことはじめ「歳の市」を開催いたします。

おかげ横丁「歳の市」で福をお持ち帰りいただき、晴れやかな気持ちで新年をお迎えください。

日 時／12月13日(土)～28日(日) 10:00～17:00

場 所／おかげ横丁一帯

※雨天および諸事情にて、中止または内容が一部変更になる場合がございます。

● お正月の支度市

新年を気持ちよく迎えるために欠かせないしめ縄など招福縁起の飾りものや、お年賀として準備しておきたい品々を取り揃えます。

日 時／12月6日(土)～25日(木) 9:30～17:00

場 所／赤福 本店別店舗

● お正月のお飾り市

しめ縄、い草リース、熊手、餅花、鏡餅などのお正月飾りが並びます。

日 時／12月13日(土)～28日(日) 10:00～17:00

場 所／孫の屋三太前「特設会場」

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ お木曳のはじまり

来る令和8年5月、いよいよ第63回神宮式年遷宮に向けたお木曳行事が本格的に始まります。実は神宮から命ぜられた夫役としてではない、神領民の自主的奉仕としてのお木曳やお白石持ち行事は、室町中期の寛正3年(1462)に始まったと言われています。

まもなく式年遷宮そのものが中断を余儀なくされるような中世後期に、なぜお木曳・お白石持ち行事が始まったのか、その謎についてお話を伺います。

日 時／12月15日(月) 13:30～15:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／岡野 友彦(皇學館大学文学部長)

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

ゆ ず
柚 子

柚子は、古くから日本人のくらしの中で親しまれてきた柑橘類です。その素晴らしい香味をお届けします。村雨生地仕立ての彩りも爽やかな一品です。

は がき
干 し 柿

伊勢路の家々の軒下に吊るされる干し柿は、初冬の風物詩のひとつです。柿餡を餅生地で包み、干し柿の姿をそのまま写し取りました。

ふゆ
冬なごみ

師走のきびしい寒さの庭に千両万両の赤い実が目に残ります。二色のきんとんで粒餡を包みました。心なごむ冬の情景です。



季節を知ったら 暮らしが楽しくなった

〈第四五六号〉

大雪 たいせつ

十二月七日

御 み
卜 うら

一年最後の月、十二月。この月中に済ませなければならぬことも多く、まさしく「師走」のあわただしさを感じます。

伊勢神宮では今月十五日から月次祭が始まります。この十二月の月次祭は、十月の神嘗祭、六月の月次祭とともに「三節祭」と呼ばれる由緒あるお祭りです。夜の午後十時と翌午前二時の二度にわたって豪華な神饌（食）が供えられ、明くる日の正午には天皇陛下よりの幣帛（布）が奉られます。そして、内宮・外宮をはじめ、神宮一二五社すべてに神職が出向き、お祭りを執り行います。このように格別に丁寧なお祭りが行われるのです。

なかでも、三節祭では、お祭りの前に行われる珍しい占いがあります。「御卜」といいます。

十二月の月次祭では十五日の午後四時頃、お祭りに奉仕する黒田清子神宮祭主をはじめ、大宮司、少宮司、神職たちが正宮に進みます。これから、「御卜」に臨むのです。

「御卜」は、神職一人ひとりが月次祭の奉仕に叶うのかどうか神慮にうかがうというもの。儀式では、神職の名が一人ずつ読み上げられます。晴天であれば、内宮の御垣内で、雨天では四丈殿で行われます。

日暮れが迫る中、諸役に付いた三人の神職は、まず名前を読み上げ、そのあと「うそぶき」（息を吸って音を出す）をふゅつと鳴らし、手にした笏でヒノキの板を一つ打ちます。これが滞りなく行われると、神慮に叶ったとされ、晴れて月次祭に奉仕ができるのです。この儀式では占われる神職はもちろんのこと、諸役に付く神職も大変な緊張を伴うことでしょう。神聖な儀式のあと、十二月の月次祭は二十五日まで行われます。

文 千種清美

